



達人の旅指南  
第103回  
フリーライター 加藤隆悦

大湯温泉 四季の庭園とかけ流しの宿

秋田県  
鹿角市

# 龍門亭 千葉旅館



城門を彷彿とさせる宿のエントランス



ラウンジで風雅なひとときを楽しみたい

紅葉が見頃のころは錦絵のように鮮やかな日本庭園



中広間は庭園鑑賞のベストポジション

## 風格のある老舗温泉宿

今は静ひつな山の湖といった風情の十和田湖だが、かつては東日本を代表する一大行楽地として華々しくにぎわっていた時代があり、北側の青森駅からのほかに、南側からも大館駅や花輪線の十和田南駅から定期路線バスが運行されていた。鹿角市の大湯温泉にはバス路線の「大湯温泉駅」が設けられ、鉄道駅に準じ

る規模と扱いであった。

それだけ大湯温泉は、古くから大きな存在だったのだろう。

明治2(1869)年創業の千葉旅館6代目当主の話では、これまで大湯温泉には、2度のにぎわいのピークがあったという。最初は戦後まで続いていた近隣の不老倉鉾山の花街としてのにぎわい、次が、昭和40年代にあった団体客が観光バスで全国から十和田湖に押し寄せた「大観光時代」だ。

その一大宿泊拠点としてのにぎわいも収まった今の大湯温泉は、静かな旅愁の里になった。龍門亭千葉旅館は、創業者が元南部藩士という土族の家柄。来年で創業150年を迎え、同族経営の温泉宿としては県内最古ではないかといわれている。宿は格調高く気品あふれる日本庭園を持ち、それを囲むように客室や浴場、ロビーがしつらえてある。取材時は庭園の紅葉が素晴らしかったが、冬は水墨画の世界を堪能できるだろう。そんな風雅な宿である。



1 阿仁川の鮎 塩焼き 2 季節の気分も味わえる前菜 3 お造りは本マグロ、カンパチ、トロ湯葉、湯葉蒟蒻 4 白神あわび踊り焼き 5 秋田牛と熟成八幡平ポークの陶板焼き 6 しじみ土瓶蒸し 7 ミズコブ鰻めしとジュンサイの冷し鉢など 8 鹿角リンゴのグラタン風



料理人の心意気まで  
感じられる先付



コンセプトルームと名付けられた格調高い客室

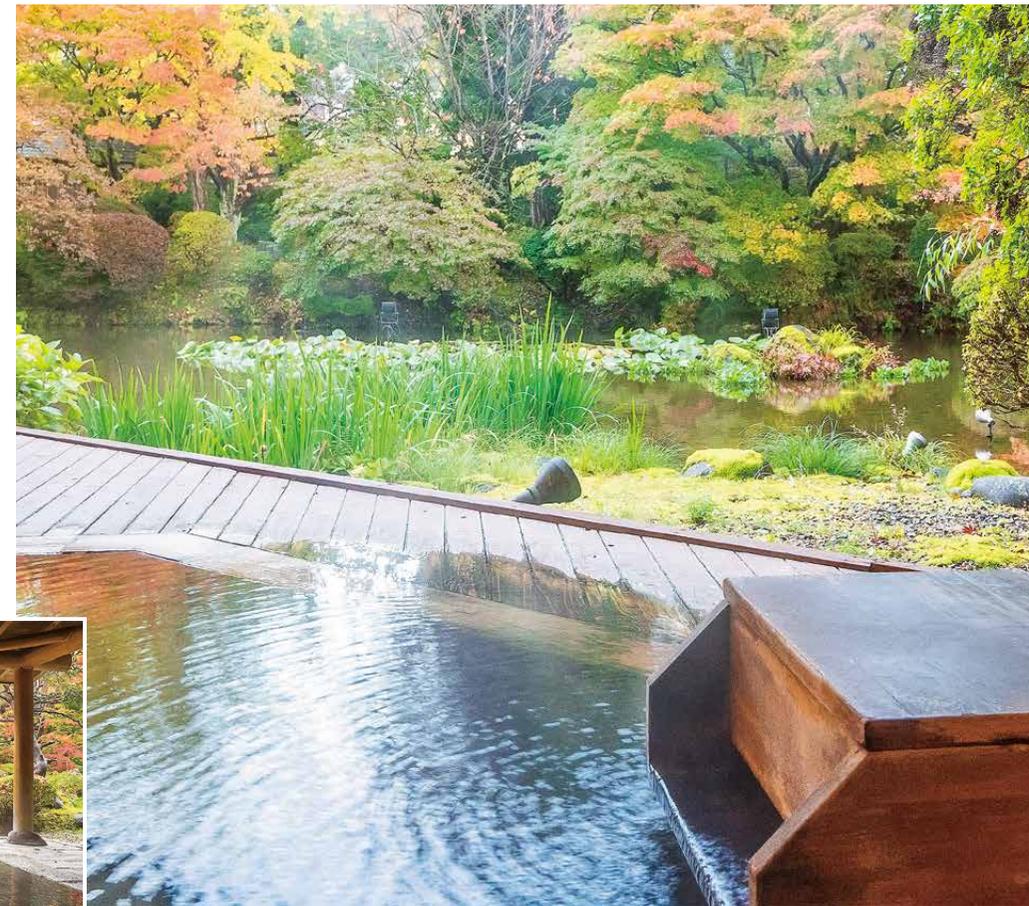
## 庭園を眺めて湯に漬かる

大湯温泉のある地区（鹿角市十和田大湯）は共同浴場が多く、かつては自宅に風呂を持たない家も少なくなかった。それだけ湧出する天然温泉が豊富で、千葉旅館でも無色透明無臭のナトリウム―塩化物泉（旧泉質名・弱食塩泉）の湯が源泉掛け流しで二つの大浴場と露天風呂にのみなみと張られている。大浴場と露天風呂は、いずれも庭園を眺めなが

ら入れる造りになっていて風流である。露天風呂は二つで、

ひのき造りと天然石積みと趣向を変えており、夜中に男女別を入れ替えるので一泊すれば両方の風情を味わえる。

全28室の客室はすべて和室で、ほとんどの部屋からは庭園を見渡せるが、一部ビジネスユースや低料金プラン用として庭園眺望のない部屋もある。また、コンセプトルームと名付けて格調高く改装された客室も3室ある。庭の眺めも申し分ない。料理のお好みと合わせてホームページで詳しくチェックして好みの部屋を見つきたい。料理は、宿泊プランによって内容は異なるが、いずれも食材の宝庫秋田らしいとどりの山海の幸が季節



露天風呂の一つはひのき造り。まるで能舞台のようだ

感も豊かに器に盛り付けられる。食でもお客をもてなしたいという宿と料理人の気概が感じられる。旅行というほど改まった意識でなくても、何かおいしいものを食べたくなったときに覚えておきたい宿でもある。そして、季節ごとに出掛けてみたい。

## 家族の記念日を祝いたい

千葉旅館は海外からの個人旅行客の利用も少なくない。伝統的和風旅館のしつらえ、風流を感じられる



日本庭園を眺めながら朝食をいただく

日本庭園とそれを眺められる浴室、そして料理人の手技が映える見た目にも美しい料理と、日本の伝統的温泉旅館の要素がよくそろっていることが人気ののだらう。夫婦の誕生日や結婚記念日、おじいちゃんおばあちゃんのお喜寿・米寿の祝い、そして一人でリフレッシュの旅をする人も、幅広く優しく受け入れてくれる千葉旅館だ。

鉄道利用だと、JR花輪線の十和田南駅まで無料送迎してもらえる（2名以上で、要事前予約）。

（文・写真IIかとうりゅうえつII秋田市）



天然石を積む露天風呂

## 龍門亭 千葉旅館

RYUMONTEI-CHIBARYOKAN

〒018-5421

鹿角市十和田大湯上の湯一丁目38-1

TEL.0186-37-2211

http://www.ryumontei.com/

※各種宿泊プランがあります。詳細はホームページをご覧ください。電話でお問い合わせください。

